

科目名	小児科学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大久保 史子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に医師として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	胎児・新生児・乳幼児・小児期から思春期にかけての疾患・病態、検査、治療についての基本的概念を習得する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				小児の体、発達について理解し、説明できる	
	○	○				小児リハビリテーションに関わる医学的知識を述べるができる	
	○	○				小児の疾患とその後のリハビリテーションの流れについて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	医学書院 言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	小児科学概論 ～小児科学とは～			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	2	成長と発達① 発育期の分類			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	3	成長と発達② 成長・発達とその評価			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	4	出生前の因子による疾患① 遺伝子病			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	5	出生前の因子による疾患② 染色体異常症			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	6	出生前の因子による疾患③ 胎芽病と胎児病			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	7	小児神経疾患・精神疾患① 神経系の奇形			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	8	小児神経疾患・精神疾患② 痙攣性疾患			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	9	小児神経疾患・精神疾患③ 神経系感染症、脳腫瘍			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	10	小児神経疾患・精神疾患④ 神経皮膚症候群、変性疾患			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	11	小児の神経筋疾患① 運動ニューロン病、ニューロパチー			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	12	小児の神経筋疾患② 重症筋無力症			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	13	小児の神経筋疾患③ ミオパチー			テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)		
	14	まとめ① 授業内容のワークシート作成			ワークシートを完成させる(60分)		
15	まとめ② 国試過去問			小児科学に関する国試過去問を解き、解説内容を覚える(60分)			
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	学習認知心理学の演習						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大森 晶子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	人間の認知の理解を深める。自分たちの認知過程を実習など通して理解する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				記憶のシステムと種類について述べるができる	
	○	○				認知システムと思考について述べるができる	
	○	○				トップダウン処理・ボトムアップ処理について説明できる	
	○	○				スキーマ構造、スクリプト構造について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	サイエンス社「情報処理心理学」中島義明 参考文献:プリントにて配布						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	記憶のシステムと種類				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	2	ワーキングメモリー				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	3	展望的記憶、プライミング				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	4	視覚のメカニズムと認知				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	5	メタ認知と認知構造				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	6	論理的推論のメカニズムと実習				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	7	確率的判断のメカニズムと実習				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	8	演繹的思考・帰納的思考				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	9	創造的思考と実習				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	10	知覚と認知によるゆがみ トップダウン・ボトムアップ処理				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	11	スキーマ構造と情報処理				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	12	基準・概念・スクリプト構造				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	13	ヒューマンエラー 失敗				教科書の該当部分を読んで復習する(30分)	
	14	復習				復習にて得られた情報を利用しこれまでの内容をまとめておく(30分)	
15	まとめ				定期試験範囲をまとめておく(60分)		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	○	◎				10%
履修上の注意							

科目名	心理測定法						
科目名(英)	Psychological methods						
単位数	1	時間数	15時間	担当者	井上 仁郎		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	ものの見え方、聞こえ方、記憶、そして発達や知能、学力などの人の「心理」を測るとはということなのかを学ぶ。また、心理測定法を言語聴覚療法にどう活用していくのかを考える。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				心理測定の基本概念と方法について説明できる	
	○	○				測定尺度について説明できる	
	○	○				評定法の基本概念について説明できる	
	○	○				心理尺度の作成方法について説明できる	
	○	○				テストの基本概念について説明できる	
	○	○				質問紙法の基本概念について説明できる	
	○	○				テストの種類と特性について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	サイエンス社「新心理学ライブラリ13 心理測定法への招待 測定から見た心理学入門」市川伸一 編著 参考文献:プリントにて配布						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	心理測定法総論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。30分		
	2	測定尺度			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。31分		
	3	評定法の基本概念			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。32分		
	4	心理尺度の作成方法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。33分		
	5	テストの種類と特性			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。34分		
	6	テストの基本概念			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。35分		
	7	質問紙法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。36分		
	8	その他の心理アセスメント			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。37分		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション概論						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	永江 信吾		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部2年生						
授業概要	リハビリテーションという言葉は、一般社会でも非常に使われるようになった。単に訓練を行い、機能回復のみを行うのではない。リハビリテーション本来の理念、基本的知識を修得する。模擬体験を通じて、生活の困難さを体験する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				リハビリテーションの理念と概念について説明できる。	
	○	○				国際生活機能分類(ICF)と国際障害分類(ICIDH)の特徴と相違が説明できる。	
	○	○				医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり方について説明できる。	
	○	○				リハビリテーションの過程と方法について概説できる。	
			○			グループディスカッションや発表を通して、新たな気づきを得ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	・診断と治療社 PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 要点整理と用語解説 改定第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハビリテーションの理念と概念、歴史、制度について			各自で新たな気づきを追記しまとめる(30分)		
	2	リハビリテーションで大切にしたいこと			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	3	チームアプローチについて 各種職種理解をしよう			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	4	急性期・回復期・生活期の特徴と役割について			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	5	生理的な老化と病的老化の違いとは。			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	6	廃用症候群って何だろう。			教科書や配布資料を読み返す(31分)		
	7	理学療法士とリハビリテーション			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	8	理学療法士とリハビリテーション			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	9	作業療法士とリハビリテーション			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	10	作業療法士とリハビリテーション			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	11	国際生活機能分類と国際障害分類			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	12	自分のこれからの目標と行動計画を立ててみよう			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	13	自分のこれからの目標と行動計画をICFを使って作成・発表			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	14	車いすについて知る 車いすで自動販売機やトイレを使ってみよう			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
15	まとめ リハビリテーションのイメージを再考する			試験対策のまとめを行う(30分)			
評価方法	(1)定期試験(筆記)(2)振り返りの課題(3)小テストを実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					60%
	振り返り課題	○					20%
	宿題・レポート				○		20%
履修上の注意							

科目名	言語聴覚療法の評価・診断						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	専任教員		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	言語聴覚療法の評価診断の基本的概念・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語聴覚療法の評価診断における基本的概念を説明できる。	
		○	○			コミュニケーション行動を観察する視点を説明できる。	
	○	○				評価診断結果をサマリにまとめる枠組みを説明できる。	
	○	○				言語聴覚障害を総合的に評価し鑑別診断する方法を説明できる。	
	○	○				言語聴覚療法を総合的に評価し鑑別診断する方法を模擬的に実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	医歯薬出版株式会社 演習で学ぶ言語聴覚療法評価入門						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	初回面接のコツ			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	2	観察と測定			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	3	観察の理論と演習			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	4	刺激と入力			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	5	標準予防策			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	6	バイタル測定			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	7	STADの手続き			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	8	STADの演習			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	9	小児分野のサマリの書き方			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	10	成人分野のサマリの書き方			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	11	高齢者の評価			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	12	チームアプローチ			内容をノートにまとめる。演習を行う。30分		
	13	論文抄読			論文抄読会の資料を作成する。		
	14	論文抄読会			他の論文を検索、レビューする。		
15	OSCE評価			フィードバックを参考にし、再度練習をする。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験			○			60%
	小テスト						
	宿題・レポート	○					20%
	発表・作品		○				20%
履修上の注意							

科目名	失語症の展開					
科目名(英)	Deployment of Aphasia					
単位数	1	時間数	45時間	担当者	高津原 直樹	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年					
授業概要	失語症に関連する検査、評価、訓練について実技演習を通して学び会得する。 前期に習った範囲を含む、失語症全般についての知識を習得する。					
授業形式	講義: △	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				各種失語症検査の対象、目的、手技、分析方法について説明できる。
			○	○		標準失語症検査(SLTA)の手技について習熟する。
	○	○				検査結果から失語症者の問題点を抽出し、訓練目標・計画を立案できる。
	○	○				代表的な失語症掘り下げ検査について理解し、対象と検査目的を列挙できる。
テキスト・教材 参考図書	(株)医学書院 標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 (株)新興医学出版社 標準失語症検査(SLTA) マニュアル					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	失語症の評価・診断・検査 標準失語症検査(SLTA)の構成と目的、手技、手法			SLTAの下位検査についてそれぞれがどのような検査なのかマニュアルを読んで調べておく(60分)	
	2	SLTA I. 聴く 概説			SLTA I. 『聴く』の項目の検査練習(90分)	
	3	SLTA I. 聴く 実技				
	4	SLTA II. 話す 概説			SLTA II. 『話す』の項目の検査練習(90分)	
	5	SLTA II. 話す 実技				
	6	SLTA III. 読む 概説			SLTA III. 『読む』の項目の検査練習(90分)	
	7	SLTA III. 読む 実技				
	8	SLTA IV. 書く、V. 計算 概説			SLTA IV. 『書く』、V. 『計算』の項目の検査練習(90分)	
	9	SLTA IV. 書く、V. 計算 実技				
	10	SLTAのプロフィール作成、検査結果分析、問題点抽出			SLTA全般の検査練習(90分)	
	11	SLTAのプロフィール作成、検査結果分析、問題点抽出				
	12	WAB失語症検査			SLTA、WAB、SALA失語症検査についての小テストを配信(5択×10問)	
	13	SALA失語症検査				
	14	失語症掘り下げ検査(重度失語症検査、TOKEN TEST)			失語症掘り下げ検査全般について的小テストを配信(5択×10問)	
	15	失語症掘り下げ検査(失語症構文検査、失語症語彙検査等)				
	16	実用コミュニケーション能力の評価(CADL)			CADLを含む失語症掘り下げ検査の検査練習(90分)	
	17	実用コミュニケーション能力の訓練				
	18	失語症治療の理論と技法			失語症訓練について的小テストを配信(5択×10問)	
	19	失語症の問題点の抽出、目標設定				
	20	失語症訓練プログラムの立案			後期試験に向けて前期からの総復習(90分以上)	
	21	SLTA実技試験、失語症者の社会参加について				
	22	SLTA実技試験、失語症者の社会参加について				
23	SLTA実技試験、失語症者の社会参加について					

評価方法	定期試験:筆記試験 小テスト:Microsoft Formsにて計3回実施。 レポート:失語症者の社会参加についてレポート(第1回) 実技試験:SLTAを実施。具体的な方法は授業内で提示						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト		○				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
	実技試験			○	○		30%
履修上の注意							

科目名	高次脳機能障害の展開					
科目名(英)						
単位数	1	時間数	45時間	担当者	三田 智巳	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年					
授業概要	高次脳機能障害の検査や訓練立案ができる。症例レポートの作成法を学び、実習に生かすことができる。国家試験に向け知識の定着を図る。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				訓練立案について説明できる。
	○					検査について説明・実施できる。
	○	○				国家試験問題を解くことができる。
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院、藤田郁代、高次脳機能障害学 第2版、インテルナ出版 荒木謙太郎、言語障害 スクリーニングテスト(STAD)、文光堂 網本 和 PT・OTのための高次脳機能障害ABC、					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	WAIS-III 解釈/分析/症例			レポートの提出のため30分程度学習	
	2	半側空間無視の検査BIT			授業プリントによ30分程度の予習	
	3	半側空間無視の検査BIT 実技			授業プリントによ30分程度の予習	
	4	注意機能検査の検査CAT			授業プリントによ30分程度の予習	
	5	注意機能検査の検査CAT			授業プリントによ30分程度の予習	
	6	失行の検査(SPTA)			授業プリントによ30分程度の予習	
	7	失行の検査(SPTA) (WAB)実技			授業プリントによ30分程度の予習	
	8	遂行機能障害の検査BADS			授業プリントによ30分程度の予習	
	9	遂行機能障害の検査FAB,WCST,Stroopテスト			小テストの為、30分以上の学習	
	10	リバーミード行動記憶検査			授業プリントによ30分程度の予習	
	11	中テスト、実技練習			授業プリントによ30分程度の予習	
	12	失認の検査(VPTA)			小テスト30分予習	
	13	Vineland- II 実施方法			小テスト30分予習	
	14	実技練習			レポート作成(動画をみて採点する課題10分)	
	15	高次脳機能障害の訓練概要			授業プリントによ30分程度の予習	
	16	注意障害の訓練、記憶障害の訓練			国試問題の小テスト10分	
	17	半側空間無視の訓練			授業プリントによ30分程度の予習	
	18	失行・失認の訓練、遂行機能障害の訓練、認知症の訓練			授業プリントによ30分程度の予習	
	19	認知症の訓練、国家試験問題解説			授業プリントによ30分程度の予習	
	20	全体像に基づいた治療(訓練・指導・支援)の優先順位、プロセス、家族・他職種・地域社会等との連携と医療福祉制度・サービス			ケースノートを見て比較するレポート	
	21	治療効果の測定法、サマリ作成、治療のカンファレンス報告、結果のフィードバック(症例)、等			授業プリントによ30分程度の予習	
	22	定期試験についての説明、先輩からの実習のお話			授業プリントによ30分程度の予習	
23	実技練習STAD			授業プリントによ30分程度の予習		

評価方法	成績処理方法: 1.テストを2回以上実施 2.定期試験 3.レポート 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				40%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	小テストやレポートを欠席などで期限内に未提出の方は、申し出てから定期試験1か月前までに提出していた できれば部分点を差上げます。なければ0点となります。						

科目名	脳性麻痺・後天性障害の展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	45時間	担当者	吉次春香・若山 恵		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	施設、病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	脳性麻痺・後天性言語発達障害に対する言語聴覚療法の評価診断および指導・支援に対する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					脳性麻痺・後天性言語発達障害の指導・支援における言語聴覚士の役割を説明できる。	
	○					脳性麻痺・後天性言語発達障害の評価診断の原則・手続きを説明できる。	
	○	○		○		収集する情報の種類と収集方法を説明し、評価および指導・支援を模擬的に実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	建帛社 言語聴覚療法シリーズ12 言語発達障害 3 改訂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	脳性麻痺の定義と発達を阻害する要因				授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	2	脳性麻痺の言語・コミュニケーション評価診断				授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	3	脳性麻痺の評価診断演習(バイタル・摂食嚥下・感覚面)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	4	脳性麻痺の評価診断演習(行動評価・発達評価・まとめ)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	5	後天性言語発達障害の定義と発達を阻害する要因				授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	6	後天性言語発達障害の評価診断演習				授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	7	脳性麻痺児・後天性言語発達障害児に対する指導・支援演習				授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	8	まとめ				試験対策のまとめを行う(30分)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	成績処理方法: 1.定期試験2.宿題、レポート 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	○				20%
履修上の注意							

科目名	LD・SLI・環境要因の展開					
科目名(英)						
単位数	1	時間数	45時間	担当者	永野 淳子	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	小児施設にて心理担当職員として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 2年					
授業概要	LD・SLI・環境要因に対する言語聴覚療法の評価診断および言語治療(指導・支援)に関する知識・技能・態度を修得する。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				LD・SLI・環境要因への言語治療(指導・支援)における言語聴覚士の役割を説明できる
	○		○	○		LD・SLI・環境要因に対し、言語聴覚療法の評価診断の基本概念と方法を説明し、模擬的に実施できる
テキスト・教材 参考図書	イラスト図解 発達障害の子どもの心と行動がわかる本					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	LDの評価診断、言語治療			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	2	環境要因による言語発達障害の評価診断言語治療			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	3	評価診断の原則、手続き			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	4	情報収集の種類と収集方法と環境面の情報収集			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	5	認知・行動面の情報収集			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	6	LDの評価診断支援① ディコーディングの評価			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	7	LDの評価診断支援② 視覚情報処理能力の評価			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	8	LDの評価診断支援③ 読解力の評価			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	9	LDの評価診断支援④ 音韻意識の評価			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	10	LDの評価診断支援⑤ 書字能力の評価			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	11	LDの評価診断支援⑥ LDの診断・支援内容のまとめ			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	12	SLIの評価診断支援① 知的障害との鑑別方法(知能検査)			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	13	SLIの評価診断支援② 認知発達の評価(知能検査)			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	14	SLIの評価診断支援③ 認知発達の評価(知能検査)			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	15	SLIの評価診断支援④ 認知発達の評価(知能検査)			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	16	SLIの評価診断支援⑤ 認知発達の評価(発達検査)			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	17	環境要因による言語発達障害の評価診断支援① 愛着障害			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	18	環境要因による言語発達障害の評価診断支援② 児童虐待			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	19	ケーススタディ① 情報収集			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	20	ケーススタディ② 評価診断			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	21	ケーススタディ③ 支援計画立案、発表			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	22	まとめ① 国試過去問の解説を作る			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
23	まとめ② 定期試験対策用まとめシートの作成			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		

評価方法	(1)宿題・レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○				20%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	音声障害の理解と展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	山口 優実		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	音声治療に携わる言語聴覚士に必要な条件(臨床に対する考え方、耳鼻咽喉科その他 の医師との連携、言語聴覚士としての能力)を理解する。 音声治療の実際について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				喉頭の解剖においてそれぞれの部位の名称と働きを説明できる。	
	○	○				呼吸の生理と発声のメカニズムについて説明することができる。	
	○	○				音声障害疾患について発生原因および症状について説明することができる。	
	○	○				音声の評価を遂行することができる。	
	○	○				音声評価診断を行いその症状にあった治療を選び実施することができる	
テキスト・教材 参考図書	建帛社 言語聴覚療法シリーズ「改定 音声障害」医歯薬出版(株) 新編 声の検査法						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	音声障害概論			配布プリントを使用して復習しておく		
	2	喉頭の解剖、呼吸生理			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	3	喉頭の解剖、呼吸生理			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	4	発声の仕組み(正常発声)			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	5	発声の仕組み(正常発声)			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	6	音声障害疾患の分類			配布プリントおよび教科書について復習しておく		
	7	音声の評価			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	8	音声の評価			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	9	音声治療			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	10	音声治療			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	11	音声治療、無喉頭音声			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	12	無喉頭音声			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	13	症例検討			症例レポートの内容について調べ深めておく		
	14	症例検討			症例レポートの内容について調べ深めておく		
15	まとめ			本日のまとめについて国家試験問題を念頭において復習する			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	器質性構音障害の理解と展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	城丸 みさと		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	小児の言語障害で大きな比重を占める構音障害のうち、器質性構音障害(主に口蓋裂)について学ぶ。器質性構音障害の基礎知識、具体的な検査、指導訓練の基礎を身に付けることを目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				構音障害の種類について概要を説明し、構音検査が実施できる	
	○	○				器質性構音障害における構音障害の特徴について説明できる	
	○	○				口蓋裂の病態について説明することができる	
	○	○				口蓋裂による構音障害の発現機序について説明することができる	
	○					器質性構音障害の検査後、指導、訓練について基本的な立案と実践ができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書 :医学書院 「口蓋裂の言語治療」 岡崎恵子編著 医歯薬出版 「言語聴覚士テキスト」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	基礎知識:小児の構音障害概説と音声表記復習			構音表記を復習して講義に臨む		
	2	基礎知識:未熟構音と異常構音—その1			構音表記を復習して講義に臨む		
	3	基礎知識:異常構音の種類と特徴—その2			構音表記を復習して講義に臨む		
	4	口蓋裂の発生と解剖			構音表記を復習して講義に臨む		
	5	口蓋裂の基礎知識:手術と術後の対応			構音表記を復習して講義に臨む		
	6	検査:発声発語器官に関する検査:口腔内視診(演習)			構音表記を復習して講義に臨む		
	7	鼻咽腔閉鎖機能に関する検査			構音表記を復習して講義に臨む		
	8	指導・訓練:音の獲得の段階			構音表記を復習して講義に臨む		
	9	指導・訓練:会話への般化まで			構音表記を復習して講義に臨む		
	10	構音訓練・検査のまとめ(演習)			構音表記を復習して講義に臨む		
	11	鼻咽腔閉鎖機能不全に対応する2次的対応			構音表記を復習して講義に臨む		
	12	口蓋裂治療パノラマ(復習)とその他の器質的構音障害			構音表記を復習して講義に臨む		
	13	その他の器質的構音障害(口腔・中咽頭癌など)			構音表記を復習して講義に臨む		
	14	国家試験の傾向と対策			本日の内容を受けて解説の理解を深めるために調べ学習をする		
15	まとめ			まとめの内容を復習し、定期試験対策としてまとめる			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎				10%
履修上の注意							

科目名	運動障害性構音障害の展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	45時間	担当者	潮崎 桃子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	①運動障害性構音障害についての基礎的な知識を理解し、その知識を診断・治療に活かすことができる ②医療人に求められる心構えや行動を理解し、ふさわしい行動ができる ③検査や訓練の実技演習を通して、症例を念頭に置いた技術を身につける						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動障害性構音障害のタイプごとの発生機序を知り問題点を抽出できる	
	○	○	○	○		運動障害性構音障害検査についてマニュアルを使用せず実行することができる	
	○	○				検査結果をもとに発生機序を知り、構音障害以外の症状にも注目し分析できる	
	○	○				それぞれ症状について発生機序にあわせた訓練立案ができる	
	○	○	○			基本的な訓練手技について目的を説明することができ、遂行できる	
テキスト・教材 参考図書	ディサースリア検査 西尾正輝 著/インテルナ出版 ディサースリア臨床標準テキスト 西尾正輝 著/医歯薬出版株式会社 運動障害性構音障害学 廣瀬肇 著/医歯薬出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	講義概要、演習の進め方について、ディサースリアの検査法			前期の学習内容を振り返る (30分)		
	2	標準ディサースリア検査の概要			教科書・配布資料をもとに復習 (30分)		
	3	一般的情報の収集、発話の検査			教科書・配布資料をもとに復習 (30分)		
	4	2コマ:実技演習 発声発語器官検査:呼吸機能、発声機能、鼻咽腔閉鎖機能			教科書・配布資料をもとに復習 (30分)		
	5	2コマ:実技演習 発声発語器官検査:口腔構音機能			教科書・配布資料をもとに復習 (30分)		
	6	2コマ:運動障害性構音障害の評価、検査のまとめ方			実技練習 (120分)		
	7	2コマ:実技試験			実技試験の振り返り:到達点と反省点をまとめる (30分)		
	8	2コマ:実技演習 検査結果の解釈の仕方、症例を想定した検査演習			教科書・配布資料をもとに復習 (30分)		
	9	2コマ:症例検討 グループに分かれ担当症例の問題点の抽出			グループごとに内容を深めておく (60分)		
	10	2コマ:実技演習 運動障害性構音障害の訓練法(発声発語器官運動へのアプローチ)			教科書・配布資料をもとに復習 (30分)		
	11	2コマ:実技演習 運動障害性構音障害の訓練法(発声発語へのアプローチ)			教科書・配布資料をもとに復習 (30分)		
	12	運動障害性構音障害の訓練法(タイプごとのアプローチ)			教科書・配布資料をもとに復習 (30分)		
	13	運動障害性構音障害の訓練法(訓練の立案)			復習と訓練立案 (60分)		
	14	運動障害性構音障害の訓練法(訓練の実施)			教科書・配布資料をもとに復習 (30分)		
15	国家試験問題を解く/まとめ			後期の復習と筆記試験の対策 (60分)			
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)検査実技試験を実施する。 (4)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記・実技)	○	○	○	○		70%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	発表	○	○	○	○		10%
履修上の注意							

科目名	摂食嚥下障害の展開									
科目名(英)	Development of dysphagia									
単位数	2単位	時間数	45時間	担当者	八木 智大					
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務					
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 2年									
授業概要	摂食嚥下障害の理解で学び得た基本的な概念を基に摂食嚥下の問題点を抽出できるようになります。治療計画を立案し訓練を提供できる知識や技術の獲得を目指します。診療技術だけではなく多職種との連携や社会資源などの知識を様々な症例を通して学び、模擬カンファレンスで評価結果や方針を報告することができるようになります。									
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	○	実技:	○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				摂食嚥下の問題点を抽出することができる。				
	○	○				摂食嚥下に対するリハビリテーション計画を立案することができる。				
	○	○				摂食嚥下障害に対して治療的アプローチ以外の方法を検討することができる。				
	○		○			摂食嚥下障害に対する基本的な訓練技法をクラスメイトに実施することができる。				
	○		○			自らの考えを模擬的カンファレンスや個別レポートの中で表現することができる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書: 藤島一郎ほか「脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 Web動画付き」医歯薬出版株式会社、2017 聖隷嚥下チーム「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」医歯薬出版株式会社、2018 MASA日本語版嚥下障害アセスメントDVD-ROM付 / 医歯薬出版/ジゼル・マン、藤島一郎/2014									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	訓練アプローチとは/姿勢の調整(ポジショニングの効果)				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	2	食品調整(食形態で何が変わるのか)				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	3	口腔ケア(歯科と嚥下との関わりは?)				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	4	訓練法の解説~間接訓練と直接訓練~ 2コマ				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	5	チームアプローチと薬物療法 2コマ				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	6	外科的対応とカニューレについての理解 2コマ				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	7	中間テスト				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	8	訓練法~実習実技練習~ 2コマ				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	9	実技試験直前! 訓練方法の振り返り 2コマ				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	10	模擬症例から倫理まで(忘れないで大切な事) 2コマ				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	11	食品調整食べてみよう(この食感とはべんとわからん)				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	12	MASAIについて(覚えていますか?)				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	13	MASAIを使用した評価(実際に評価してみよう)				教科書の該当部分を復習する(30分)				
	14	模擬カンファ、介護予防(役に成り切った人だけが楽しめる授業)				教科書の該当部分を復習する(30分)				
15	国試を解く(最後は真面目に終わらしましょう)				教科書の該当部分を復習する(30分)					
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(小テストは当日の授業内容について実施する)。(2)定期試験(筆記・実技)を実施。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				30%			
	中間テスト	◎	◎		○		30%			
	実技試験			◎	○		30%			
	発表、演習態度				◎		10%			
履修上の注意										

科目名	吃音の理解と展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	仲野里香・久保健彦		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	吃音の基礎知識や臨床に必要な基本的技能について学習する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					吃音児者のおかれている状況について考えることができる	
	○					言語聴覚士としての援助の在り方を理解し説明することができる	
	○	○	○			吃音とはなにかを理解し、情報収集(検査含む)、評価および指導・訓練など臨床に必要な基本的知識技能を身につけている	
テキスト・教材 参考図書	学苑社 シリーズ きこえとことばの発達と支援 医学書院 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 三輪書店 間接法による吃音訓練～自然で無意識的な発話へのアプローチ～						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	吃音・流暢性障害の基本的知識				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	2	吃音症状 吃音中核症状とその他の非流暢性などについて				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	3	進展段階 吃音の進展段階について理解する				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	4	吃音児者のおかれている現状を知り、言語聴覚士としてどのように援助するべきか考える				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	5	吃音・流暢性障害臨床① 吃音・流暢性障害臨床の流れ 情報収集				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	6	吃音・流暢性障害臨床② 吃音検査法他				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	7	吃音・流暢性障害臨床③ 吃音検査法他				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	8	吃音・流暢性障害臨床④ 吃音・流暢性障害の指導・訓練法				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	9	吃音・流暢性障害臨床⑤ 吃音・流暢性障害の指導・訓練法				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	10	吃音・流暢性障害臨床⑥ 吃音・流暢性障害の指導・訓練法				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	11	吃音・流暢性障害臨床⑦ 吃音・流暢性障害の指導・訓練法				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	12	吃音・流暢性障害臨床⑧ 吃音・流暢性障害の指導・訓練法				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	13	吃音・流暢性障害臨床⑨ 吃音総合評価(症例検討)				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
	14	吃音・流暢性障害臨床⑩ 吃音・指導・訓練法 再評価				教科書・配布プリントを参考に復習しておく	
15	まとめ				教科書・配布プリントを参考に復習しておく		
評価方法	①定期試験を実施する②授業内で小テストを実施する③テーマに沿ったレポート作成をする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート 発表・作品	○	◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	成人聴覚障害の支援						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30	担当者	石橋るみ		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	補聴器メーカーに言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科2年						
授業概要	聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断および言語治療に関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:	<input type="radio"/>	実習:		
				実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>					成人聴覚障害の支援方法について概説することができる	
	<input type="radio"/>					補聴器、人工内耳の適応例を挙げることができる	
	<input type="radio"/>					補聴器の調整について概説できる	
			<input type="radio"/>			補聴器を模擬的に調整できる	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				聴覚リハビリテーションの計画を立て模擬的に実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	藤田郁代(監)標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	聴覚リハビリテーション概論				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	2	聴覚障害の言語治療の基本理念				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	3	コミュニケーションモードの選択				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	4	聴覚補償機器の装用理論				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	5	聴覚補償機器の装用手順と調整				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	6	聴覚補償機器の効果測定				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	7	ボトムアップ聴能訓練				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	8	追唱法による聴能訓練				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	9	コミュニケーションスキルトレーニング				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	10	聴覚リハビリテーション				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	11	障害の全体像、環境条件				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	12	統合と分析、治療計画の作成				評価サマリを作成する(1時間)	
	13	実技演習				他のグループの演習から振り返りを作成する。	
	14	前庭機能のリハビリテーション				授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
15	ケースカンファレンス				講座全体を振り返り、繰り返し学習する(1時間)		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				70%
	小テスト						
	宿題・レポート				<input type="radio"/>		30%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	視聴覚二重障害									
科目名(英)										
単位数	1	時間数	15時間	担当者	星子 隆裕					
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務					
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年									
授業概要	聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を修得する。									
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:	<input type="radio"/>	実習:		実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	<input type="radio"/>					視聴覚二重障害のタイプを列挙しコミュニケーションモダリティを選択できる。				
	<input type="radio"/>					視聴覚二重障害を持った方の困難さの具体的事例を知る。				
				<input type="radio"/>		障害を持った方の情意を推し量ることができる。				
				<input type="radio"/>		フィールドワークを通して、自らの学びを広げることができる。				
	<input type="radio"/>					情報補償について説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	配布資料および各自作成するポスター									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	視聴覚二重障害の総論				授業を振り返りA4用紙1枚にマインドマップを作成する。				
	2	ビデオ教材学習「社会に生きる」				授業を振り返り、A4用紙1枚にマインドマップを作成する。				
	3	ビデオ教材学習「盲ろうとともに」				授業を振り返り、A4用紙1枚にマインドマップを作成する。				
	4	卒業生講話				授業を振り返り、A4用紙1枚にマインドマップを作成する。				
	5	聴覚障害支援者の講話				授業を振り返り、A4用紙1枚にマインドマップを作成する。				
	6	フィールドワーク準備				フィールドワークのテーマを決め、計画書を作成する。				
	7	フィールドワーク				フィールドワーク報告会に向けまとめる				
	8	報告会				他のグループの発表をまとめる				
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				70%			
	小テスト									
	宿題・レポート				<input type="radio"/>		30%			
	発表・作品									
履修上の注意	聴覚系の他の講座資料を振り返りながら受講してもらいたい。 国家試験過去問題から関連問題を探し、開講期間に全問理解すること。									

科目名	臨床技術学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	60時間	担当者	八木 智大		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科2年						
授業概要	1. 言語聴覚療法の目的における検査・評価・診断の流れを説明できる。 2. あらゆる要因を加味した、言語病理学的診断における根拠を統合して説明できる。 3. それぞれの病態や背景にあわせた、治療目標および計画を立案しその根拠について説明できる。 4. OSCEの実施により、具体的な臨床像を念頭においた取り組みの必要性を理解し説明することができる						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				検査・評価・診断の内容を根拠をもって選択し説明することができる。	
	○	○				言語聴覚障害に関わる疾患の病態について説明することができる。	
	○	○				治療目標や計画立案の内容を根拠をもって計画し説明することができる。	
	○	○	○	○		臨床実習後OSCEを通して自分の課題を知り説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	プリントを使用します						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	言語聴覚療法の実際について振り返り/臨床実習後OSCEについて説明			配布資料の内容について30分程度復習しておくこと		
	2	臨床実習報告会実施			本日の発表内容について2時間以上調べ学習		
	3	臨床実習報告会実施			本日の発表内容について2時間以上調べ学習		
	4	臨床実習報告会実施			本日の発表内容について2時間以上調べ学習		
	5	検査・訓練演習(実際に実習で経験した内容をもとにして)			検査・訓練の内容について理解を深めることを目的に1時間程度参考文献を検索し読む		
	6	検査・訓練演習(実際に実習で経験した内容をもとにして)			検査・訓練の内容について理解を深めることを目的に1時間程度参考文献を検索し読む		
	7	臨床実習後OSCEの実施			自主練習を2時間以上行う		
	8	臨床実習後OSCEの実施			自主練習を2時間以上行う		
	9	臨床実習後OSCEの実施			自主練習を2時間以上行う		
	10	臨床実習事後セミナー(検査について)			自主練習を2時間以上行う		
	11	臨床実習事後セミナー(評価について)			自主練習を2時間以上行う		
	12	臨床実習事後セミナー(診断について)			自主練習を2時間以上行う		
	13	臨床実習事後セミナー(訓練内容について)			自主練習を2時間以上行う		
	14	臨床実習事後セミナー(リハビリテーションにおける言語聴覚療法について/ICFの考え方を土台にして)			配布資料の内容について1時間程度復習しておくこと		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で実習報告発表を実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技テスト)	○	○	○	○		40%
	宿題・レポート	○	○				20%
	発表	○	○		○		40%
履修上の注意							

科目名	評価演習						
科目名(英)							
単位数	3	時間数	120時間	担当者	実習指導者		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院および施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科2年						
授業概要	実習指導者の指導の下でリハビリテーションおよび言語聴覚療法の実際を見学すると共に、職業人、社会人としての態度を学ぶことである。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
実習目標	<p>(1)言語聴覚士の業務の流れとその内容を理解し、実習指導者の指導のもと実施することができる。</p> <p>(2)言語聴覚士が働いている姿を通して、障害を持つ人への対応や職業人としての基本的態度を理解し、実習指導者の指導の下、遂行することができる。</p> <p>(3)実習を通して、実際の臨床場面を見学し、学生それぞれの学習の到達点を確認し、3年次の臨床実習へつなげる個人目標を具体的にすることができる。</p>						
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<p>評価演習 2023年2月6日～25日 ※施設の就業規定に応じて3週間実施(5日/週を基本とする)</p> <p>開始前1週間は事前セミナー期間とし、心構え、メンタルヘルス、障害各論などの講義を行う。 実習後1週間は事後セミナー期間とし、実習で得た学びを整理し、発表を通して共有する。</p>					
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	評価演習指導者が学校の定める成績評価の基準によって評価した、実習成績報告点6割 評価実習期間中における学校評価項目による、評価点を4割						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	上記参照	◎	◎	◎	◎	◎	100%
履修上の注意							